

GIGAスクール環境下における体育授業の充実 実践研究校 研究報告

水泳

山口県立西京高等学校（山口県）
電話番号 083-923-8508
メールアドレス a51180@pref.yamaguchi.lg.jp

●実践研究のねらい

- 力まずに速く、長く効率的に泳ぐことを目指しながら、自己や仲間の課題を見付け解決していくことを楽しむ授業の研究

●具体的な活用方法

- 《協働的な学び》 知識・技能の定着を助けるデジタルドリル
- 《協働的な学び》 意見・回答の即時共有を通じた効果的なグループ別学習

●指導の工夫

1 次時の課題につながる働きかけの工夫

ICT機器を活用し、毎時間の学習の終わりに、自分の泳技術について振り返る時間や生徒同士で意見交換をする場を保障することで、次時の授業に見通しを持ったり、泳技術を獲得したりすることができるように工夫した。

2 自他の取組を認め合う場面の工夫

グループでの泳ぎの撮影により、泳技術について分析したり、教え合ったりする場面や意見交換の場面を設定することによって、取組の良さの評価について、褒め合ったり励まし合ったりする関係性が生まれるように工夫した。

●授業の様子



【泳ぎの撮影】

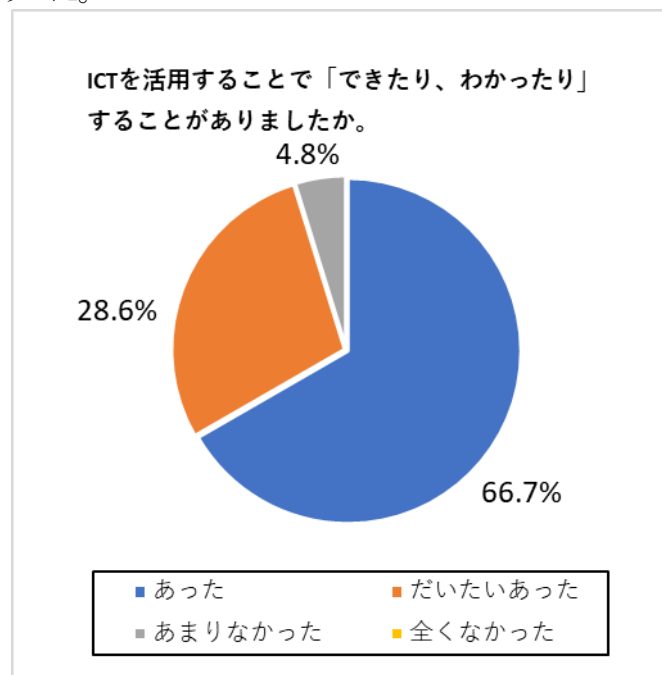


【撮影した動画の分析】

●児童生徒の資質・能力の育成状況、取組み方や意識の変容など

【児童生徒の資質・能力の育成状況】

- ICT機器を活用することで、「できたりわかったりすることがあった」「できたりわかったりすることがだいたいあった」と回答した生徒が、95.3%であり、知識及び技能の習得に効果があった。



【取組み方や意識の変容】

- ICT機器を活用することで、ストローク・キック・呼吸・これらのタイミングなど、観察の視点を明確にすることが課題の発見に有効であるということに気付く生徒が多く、グループでの協働的な学びの充実につながった。

●成果

- グループ活動が充実し、自分の課題を見付ける「個別最適な学び」と、仲間と助け合う「協働的な学び」を往還することで、より深く学びを定着することができた。
- 水泳の技能や原理原則についての説明を十分に行うことで、運動観察の方法や視点を生徒に持たせることができ、動画を撮影する際には、撮影の位置や角度についても生徒が考え、自他の課題解決に向かうことができた。

●課題

- タブレットを使って、トリオで学習する中で、グループに対する指導と、水深が2mあるプールでの活動での安全確保の両立が課題であった。
- 水泳が苦手な生徒にとって、水中に潜って動画を撮影することが困難な場面があり、水慣れ等で体の力みを取る指導をもっと十分に行うべきであった。